

第7回国際コンファレンス

アジアの成長と金融セクターの役割

セッションⅢ 「アジアの金融・資本市場と金融業の課題および成長戦略」

アジアの金融産業の育成に向けて

鷺見 周久

金融庁総務企画局参事官(国際・競争力強化)

概要

金融の基本的な役割は、経済成長の促進と金融の安定の確保という2つの目標を達成することと特徴付けることができる。金融庁では、これらの目標を最大限に達成するため、様々な施策を講じているところである。

経済成長の促進に関して、2010年12月に公表した「金融資本市場及び金融産業の活性化等のためのアクションプラン～新成長戦略の実現に向けて～」では、金融が、①実体経済を支え、②金融自身も成長産業として経済をリードするという2つの役割を十分に発揮するための環境を整備するため、金融庁として今後取り組んでいく方策についてまとめている。特に、我々は「アジアと日本をつなぐ金融」を本アクションプランの3つの柱のうちの一つとして、成長著しいアジア経済圏の重要性に力点を置いている。また、金融の安定の確保に関して、金融庁では、今回のグローバルな金融危機に対し、短期的には金融仲介機能の維持、中長期的にはシステミック・リスクの削減という観点から様々な措置を講じてきた。

日本と中国の巨額の経常収支黒字を考えると、金融のセーフティー・ネットとしての地域間取組(チェンマイ・イニシアティブ(CMI))の促進や域内貯蓄の活用と域内への安定した資金供給の整備(アジア債券市場イニシアティブ(ABMI))等の資本受け入れ国側の対応と合わせて、日本と中国はアジアの今後の経済成長により貢献することが可能である。